

外国語教育報告書

浜松市立東小学校 河合 城聖

～新しい学習指導要領「教科として実施される英語」に向けて～

2020年から小学校で完全実施される教科としての「英語」。本年度、各研修会で実施に向けて多くのアドバイスをいただきました。研修してきた内容を基に、主に試行してみたことを紹介します。

① 教室英語の活用

今まで、英語を使っていた場面は、授業の開始時、終了時、挨拶をするとき程度でした。しかし、単語だけでもいいので、伝えることを意識してみました。児童が指示や活動内容を理解したかを確認する時、教室にあるものを示す時、最近のニュースなどを取り上げる時など、ちょっとした単語や言葉で英語を用いて伝えていくことで、児童も気軽に英語を使おうという意識が見られるようになってきました。継続していくことで、単語に対する興味、関心も高まってきたように感じました。

② 絵本の活用

研修会で、「漠然と読み進めるのではなく、対話しながら読むことが大事であること」を教えていただきました。質問したり、確認したりしながら、子供たちとやり取りをし、ストーリーを一緒に味わいながら絵本を読みました。継続的に行うことで、聞く力や考える力を伸ばしていけると感じました。また、絵本をとして、異なる文化や物の見方にも触れることができ、子供たちが吸収するものがたくさんあると感じました。

③ 単語学習

単語やアルファベットの音に関する指導も大事に扱っていく必要があることを教えていただきました。特に、新しい単語を取り上げる際の導入を大切にしてみました。実物や絵、写真をただそのまま提示するだけでなく、カルタゲームや、ミッシングゲームなど活動を通して単語に触れさせたり、ジェスチャー、動作などで伝えたりして理解させてきました。

その他にも、他教科との関連、ALTとの打ち合わせ、指導案の作成など課題は山積されていますが、子供たちの気付きを大切にしながら、一回一回の活動を充実させていきたいと思います。